

カンボジア 工場労働者のための子宮頸がんを入口とした 女性のヘルスケア向上プロジェクト

Newsletter from SCGO-JSOG Project on Women's Health and Cervical Cancer

No. 10 August 2016

日本産科婦人科学会員の医師による実地指導

8月14～21日の間、慶應義塾大学より阪埜医師と山上医師が派遣され、プロジェクト対象のクメールソビエト病院、カルメット病院、国立母子保健センター病院での技術指導、ミニセミナーとして講義や症例検討会を2回開催しました。

さらに、カンボジア産婦人科学会の理事会に出席し、学会運営や学会の3カ年活動計画、学会誌等について助言を行いました。

「カンボジア派遣を終えて」

慶應義塾大学医学部 阪埜 浩司 山上 亘

JICA 草の根技術協力事業への日本産科婦人科学会からの医師派遣事業として、2016年8月14日より20日までプノンペンを訪問し、国立3病院への病院訪問、ミニレクチャー、ミーティング等を行いました。

本年6月より日本産科婦人科学会の事業として、慈恵医大、徳島大の2つのチームが既に派遣されましたが、この活動によってかれらの診断技術は習熟し、一定の成果が上がっていることを確認しました。但し、カンボジアでは本邦の診療システムと異なり患者記録がシステム化されていません。診断治療技術の質を担保するためには実施記録と検査結果（細胞診、組織診の診断結果）に基づいて評価、検証していくことが有用と考えられますが、カンボジアの現行のシステムではそれが困難なため、記録用紙や患者登録用紙を作成し、それらを運用していく必要性があると思われました。各病院への訪問時や国立3病院の代表者とのミーティングで、その重要性について説明し、理解を得ました。

一方、ミニセミナーはカンボジア産婦人科学会事務局にて16日、18日午後開催され、多くの現地の産婦人科医および病理医の先生方にお集まりいただきました。カナル理事長の座長のもと、16日は臨床医に役立つ子宮頸がんの細胞診、組織診についてのミニレクチャーを行いました。カンボジアは臨床医が細胞診組織診を診る文化はなく、臨床医と病理医のコミュニケーションが希薄なようです。また、取扱い規約のような臨床医と病理医の間をつなぐツールもない状況であり、彼らにとってはかなり興味深い内容だったようで、特に手術検体の切り出し方法など活発な質疑応答がなされました。18日はクメール・ソビエト病院と国立母子保健センターに症例報告をしてもらい、症例検討会を行いました。我々より症例報告の方法について解説を行った後、両者の病院の若手の先生が手術を施行した症例について症例報告を行い、それに対して議論が行われました。カンボジアでは症例検討という土壌が育っておらず、教科書的知識



(写真) 外来での技術指導



(写真) ミニレクチャー風景



(写真) 感謝状授与式



(写真) 感謝状授与式後の集合写真

と権威者の意見が重いという環境のようですので、今後こういった取り組みが根付いていってくれることを期待したいと思います。

また、今回はカンボジア産婦人科学会の理事会が同時期に開催され、オブザーバーとしての参加を求められたため、出席しました。学会運営や学会のシステム作りについての助言を求められたため、それについて、本邦の学会のシステムを元に、種々の助言を行いました。

今回の訪問の我々の所感としては、子宮頸癌の診療に重要なコルポスコピーはだいぶ習熟されてきていると思います。今後はその診断の質の維持を、細胞診組織診を元に、独自で行えるように、登録制度を充実させていく必要があると思います。子宮頸癌の検診方法は新しい検査手法の導入も検討されていますが、これまで継続して指導してきた手技の習熟は二次予防においては不可欠な手技と思われるので、引き続き日本産科婦人科学会の事業として関わっていけることを望みます。また、近年カンボジア産婦人科学会の学会員数が劇的に増加し、活動が活発になってきているようですので、今後カンボジアの言語であるクメール語による用語集や取扱い規約、学会誌などの作成、発刊が行えれば、益々カンボジアの産婦人科医療の向上につながるのではないかと考えられるため、そういった事業にも本会として力になることができればと思います。

最後になりましたが、今回われわれに同行いただきました藤田 則子先生、滞在中さまざまな配慮をいただきました野中 愛恵様に深く感謝申し上げます。

カンボジア産婦人科学会(SCGO)のHPとニュースレター

昨年 11 月、カンボジア産婦人科学会(SCGO)の事務局強化として、JSOG 事務局長および経理担当者から提案のありましたカンボジア産婦人科学会 HP の整備は、12 月に SCGO の理事会での合意を経て、1 月末に新たに開設しました。

<http://scgo-kh.com/>

現在は、学会員向けに、SCGO 主催で開催予定のセミナーや年次学術総会の案内、SCGO が実施してきた活動の報告、ニュースレターが主な内容で、順次新しい情報を載せています。まだ改善点は多々あるのですが、カンボジア産婦人科学会からの情報発信として大きな役割を担っており、例えば、6 月に開催されましたセミナーには、平日開催にもかかわらず、地方から多くの学会員が参加しました。

また、日本向けのニュースレターを参考に、カンボジア人スタッフが、カンボジア産婦人科学会のニュースレターを作成するようになり、カンボジア産婦人科学会の HP に第一号を載せています。まずは、1 年に 2 回ぐらいのペースで、学会員に情報提供できることを目標としています。

<http://scgo-kh.com/2016/05/18/newsletter-1-q1-october-december-2015/>

プロジェクトを取り巻く動き

- 8/7-8/21 : 藤田則子医師カンボジア派遣
- 8/8 : SCGO 理事会(11 月の学会準備)
- 8/10 : 11 月の学会に向けて事務局会議(学会運営委員会の職務分掌)
- 8/10 : 9 月~10 月に日本で研修を受ける研修員への研修概要および事前準備についての説明
- 8/14-8/21 : 慶應義塾大学より阪笠浩司医師、山上亘医師カンボジア派遣
- 8/18 : SCGO 臨時会議開催
3 年間の SCGO 活動計画(Strategic Plan2016-2018) 合意
- 8/19 : プロジェクトで作成したプロトコール、登録台紙を
3 病院で使用開始
- 8/19-9/29 : 大石博子専門家(健康教育教材作成)カンボジア派遣
- 8/24 : 工場での健康教育活動開始
- 8/25 : SCGO 理事会(11 月の学会準備)



カンボジア産婦人科学会の HP



カンボジア産婦人科学会の HP 内にあるカンボジア産婦人科学会発行のニュースレター